

「病院情報システムの利用者心得」の公表
一般社団法人 日本医療情報学会・医療情報技師育成部会

2013年11月14日

近年、多くの病院でオーダエントリーシステムや電子カルテシステムの導入が進んでいます。その一方で、それらのシステムを扱う医師、看護師、コメディカルなどの医療スタッフや事務職員（外部委託業者を含む）などによるコンピュータ端末の誤操作や診療情報活用の知識の甘さが原因で、ヒヤリハットやデータ漏洩が、年間150件から170件発生していることも報告されています。

一般社団法人日本医療情報学会・医療情報技師育成部会は、設立以来、一貫して病院を中心とする保健・医療・福祉機関等で、安全かつ有効に情報システムが機能するための方策を検討してきました。これまでは、情報システムの開発や管理に当たる「医療情報技師」や「上級医療情報技師」という専門職を育成し、活躍する場をつくることをめざして活動を行ってきました。そして、「医療情報技師」が14,000人を越えた段階である程度目的は達成されると考えていました。

しかしながら、電子カルテが普及するにつれ、情報システムの開発や管理を行う専門職を育成するばかりではなく、システムの利用者である一般の病院職員も一定のスキルを備えることが必要であると考えに至りました。すなわち、医療安全、院内感染対策、医薬品安全、および医療機器安全などと同様に、病院情報システムに関する正しい知識を全利用者が修得し、適切に利用することが求められると考えるようになりました。

そこで、医療情報技師育成部会では、このようなシステム利用上の原因がもとで、医療の質や患者のプライバシー保護を脅かしかねないトラブル事例を1つでも防止するため、一般利用者向けの心得（「病院情報システムの利用者心得」、以下、心得）を作成しましたので、公表させていただく次第です。

この心得は、病院情報システムの構築、運営に関わる専門学会である一般社団法人日本医療情報学会の医療情報技師育成部会が、1年半にわたり検討してきたもので、病院情報システムの一般の利用者である医療スタッフや事務職員が、ぜひとも持つべき「マナー」、「知っておくべきこと」、「すべきこと」、および「してはならないこと」の標準的な内容を示しています。また、この心得は、それぞれの病院に勤務する医療情報技師が、病院情報システムの安全を確保するための日常の教育啓発活動を支援する目的で作成したものです。

各病院は、病院情報システム利用のための独自の教育・研修プログラムを立ち上げておられると思いますが、この心得を利用して研修会等を医療情報技師などが中心になって開催されることをお勧めいたします。同時に、この心得が医療情報技師／上級医療情報技師の方々の日頃の活動の一助となれば幸いです。

なお、本心得の公表につきましてご意見がございましたら、いつでも育成部会事務局までメールにてお知らせください。

以 上